



福音館書店

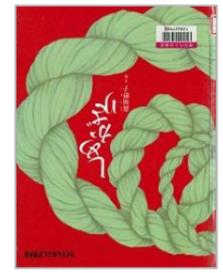
クリスティーナ・キーン//絵

カト・アキヒロ//作

『ゆきのうた』

にこめられた人々の思いを知ることができる本。

「年神様」をむかえるために、玄関にかざる「しめかざり」。作り手やかざる場所、地域によって、つる、かめ、馬などさまざまな形をしています。「しめかざり」



☆☆

福音館書店

森 須磨子//作

『しめかざり』

雪がつもって真っ白な森の中をスキーでする雪の下のえものにとびつくキツネにであいまい雪の下で、冬のさむさやきけんから身を守りながらくらすきものたちのひみつの世界を教えてください。

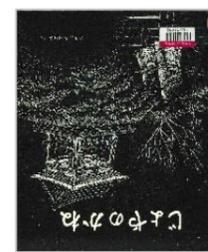
☆☆

長崎出版

あんどろのりこ//訳

ハリー・キル//作

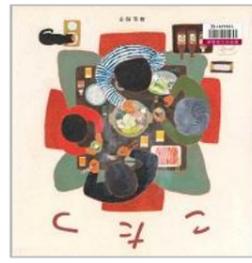
『雪の日のたんじょう日』



☆

とうごう なりさ//作

『しよやのかね』



☆

福音館書店

麻生 知子//作

『こたつ』

『おおはくちょうのそら』

手島 圭三郎//作 リブリオ出版

☆☆



病気のこどもを残して、飛び立たなければならない6羽のおおはくちょうの家族。悲しくもやさしい物語を、美しく力強い版画でえがいています。



『雪わたり』

宮沢 賢治//著

福音館書店

☆☆

雪がすっかりこおって、いつもは歩けない畑の中や野原の上が歩ける雪わたりの日、四郎とかん子が歌をうたいながら歩いていると、きつねの紺(こん)三郎がやってきて、二人を月夜の幻燈会(げんとうかい)にしようたいしました。



『つるにようぼう』

矢川 澄子//再話

赤羽 末吉//画

福音館書店

☆

『大雲払いの夜』

(シリーズあり)

富安 陽子//作

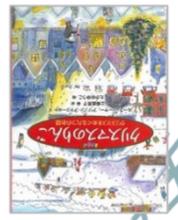
偕成社

☆☆



スズナ山のあたらしい山神になったスズナ姫は、はじめての山の冬じたくに大いそがし。年こしの大雲払いの夜までに、山の生き物が冬をのりこえるじゅんぴを終わらせないといけません。ところが、そんな中、山の名木、「千年桜」の木がぬすまれる事件がおきて…。

イエス様へのクリスマス贈り物に、時計作りは、食べるものも食べず何年もかけて美しい仕掛け時計を作りました。けれども、女の子を救うためにその時計を売ってしまい、残ったのは、たった一つのりんごだけ。時計作りがそのりんごをさいだんにささげた時、きせきがおこって…。(「クリスマス



『クリスマスのおんご』

ル・ア・ヤ・再話 ほか

上條 由美子//訳編

福音館書店

☆☆☆

ハンシはクリスマス休みの山の上のおじさんのところへおこすことになりました。毎日かをはじめのことばかりで楽しくて、ハンシは山のくらしが大好きになりました。



『山のクリスマス』

ル・ア・ヤ・再話//作

光吉 夏弥//訳編

岩波書店

☆☆

『とってもしきなクリスマス』



ル・ア・ヤ・作

ほるぶ出版

☆

町へ買い物に出かけたリサハットは、知らない人のそりにのってしまいます。周りに家もないしすかかな森の中でそりからおろされたリサハットは不安な気持ちとたたかいたいながら家までかえろうとがんばります。なかなか帰ってこないリサハットを心配するお姉ちゃんとの姉妹の物語。

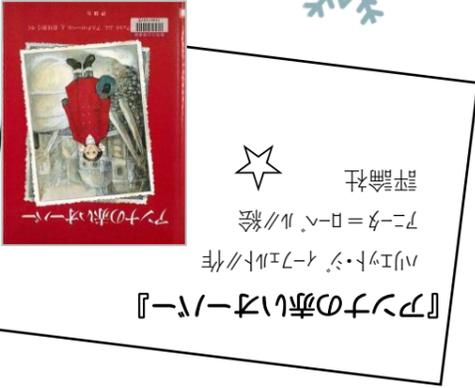


『雪の森のリサハット』

アストリッド・リント//作

石井 登志子//訳

☆☆



『アプナの赤いオーバー』

ル・ア・ヤ・再話//作

評論社

☆



『ふゆのはなし』

イルスト・クライド ルフ//作

福音館書店

☆

『ミス・ヒッコリーと森のなかまたち』

キャロライン・シャーウィン・ペイリ//作

坪井 郁美//訳

福音館書店

☆☆☆



ミス・ヒッコリーは小えだの木のみでできたお人形です。ある秋の日、おやしきのライラックの木の下からリンゴの木のコマドリの巣にしぶしぶ引越すことになったミス・ヒッコリー。しかし、いろいろな生きものと出会い、だんだんと森での生活が楽しくなっていきます。

読んだ本の☆をぬってみよう!

いくつぬれたかな? コ

イラスト協力:わんぱぐ

2022.12 発行

~テーマ別ブックリスト~

「冬」によみたい本

【3・4年生】

『南極のコレクション』

武田 剛//著

フレーベル館

☆



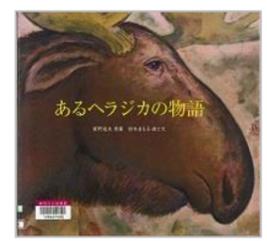
『あるヘラジカの物語』

星野 道夫//原案

鈴木 まもる//絵と文

あすなろ書房

☆



『つらら』

細島 雅代//写真

伊地知 英信//文 ポプラ社

☆

豊岡市立図書館